

# 児童が自分の考えをいきいきと表現し、 自信をもって学ぶことのできる授業の創造 ～米子市立彦名小学校～

## 1 とっとり学力・学習状況調査の状況

- 【学力レベル】国語、算数ともに学力レベルが伸びている。特に6年生の算数は「学力を伸ばした児童の割合」と「学力の伸び率」が県平均を上回るとともに、下位層において伸びた児童が多い。
- 【主体的・対話的で深い学びの実施】県平均を上回る。
- 【学習方略】5年生は、すべての項目において伸びが県平均を上回っており、6年生は、プランニング方略、認知的方略、努力調整方略の伸びが県平均を上回る。
- 【非認知能力】自己効力感が県平均を上回る。

## 2 効果があると考えられる取組

彦名小学校では、算数を研究教科として、授業改善や児童の学力向上を目的に研究に取り組んでいる。

### (1) 自分の考えを表現し、自信をもって学ぶことのできる授業づくり

#### ①「彦名スタンダード」の作成と活用

これまで彦名小学校で積み上げてきた授業実践を基に「彦名スタンダード」を作成し、誰もが同じ授業展開ができるように共通理解を図っている。校内で授業の流れが統一されていることで、児童は年度や授業者が変わってもスムーズに学習に臨めている。また、毎年改訂することで、より児童の実態に合ったものとして活用されている。

特に、めあてを教師主体ではなく児童主体で立てることを意識したり、話し合う際に図を使ったり友達の言葉を言い換えたりして一人の発表を学級全体でつなげるように意識したりしている点は、主体的・対話的で深い学びの実施の数値が高いという結果や認知的方略の伸びにつながっていると考えられる。

彦名スタンダード

<b>め</b> めあてを立てる	まとめの問いとなっている	既習とのズレを問う	繰り返り上げる	必要に応じた小集団対話	ペア対話、班対話、自由対話 タブレットPCでの情報交換
	上級:児童主体でめあてをたてる	まとめからめあてを明確にする		全員をBに押し上げる全体対話	困っている児童の疑問から始まる
<b>み</b> 見通す	中級:児童と共にめあてを立てる	日常の事象・数値との比較	図、式、言葉、操作、実物(数学的表現)の積極的往還	友だちの考えを理解し、つなげる説明 数学的表現の役割分担による往還	
	初級:教師がめあてを示す		解きなおす習慣	考えの根拠を示しながら発表する	
	結果の見通し	図や既習、経験をもとに「～ぐらい」「～以上になる」等見通す	全員がBに高まっているかの確認	分かったことをアウトプットする	
	方法の見通し	板書の隅に書く、掲示の活用等			

#### ②自力解決事項の焦点化（学年団での教材研究）

「児童が一番つまずく・困る・悩むことは何か」を予測し、学年団で教材研究を行っている。自力解決段階での形成的評価で確実に見取るために、Cの児童の様相から評価基準と手立てを考え、机間指導の際もCになりそうな児童から回るようにしている。このように本時の自力解決事項を焦点化して授業に臨むことで、その時間につける力が明確になり、児童の見取りと支援が具体化している。また、焦点化することで自力解決にかかる時間が短くなり、タイムマネジメントにもつながっている。そして、何よりも授業がよりシンプルになることで、全員の「わかった」につながり、学力レベルの伸びにもつながっていると考えられる。

### ③児童の実態に合わせた学習形態や課題の工夫

プレテストで把握した児童の実態や単元の特性をもとに、少人数指導やティーム・ティーチングを実施し、算数に苦手意識の強かった児童が主体的に授業参加できるようにしている。また、テストやドリル教材は例年通りではなく、児童の実態に合ったものを選定するように心がけ、児童が「できる」「解けた」という気持ちをもてるようにしている。課題（宿題）についても、児童の様相に合わせて「計算ドリルのここをしよう」「前学年のプリントから」等と本人と保護者の了解のもとで実態に合わせて設定している。このような取り組みは、6年生の学力の伸びや自己効力感の伸びにつながっていると思われる。

### ④ICTの活用

ICTの効果的な活用方法の一つとして、学習中に友達の考えをいつでも見えるようにしている。自分の考えに自信がもてない児童も、友達の学びを参考にしながら、自分の学びを深めることができ、柔軟的方略や認知的方略の伸びにつながったと考えられる。また、タブレットドリルの活用で学習量が増えたことは、学力の向上にも結び付いたと考えられる。



### (2) 基礎学力を育成する取組

彦名小学校では、朝の10分間の時間を、月曜日と木曜日はドリルタイム、金曜日はタブレットタイムと位置付けて取り組んでいる。

昨年度、5年生のドリルタイムでは、ショートテストを行う際に、事前にテスト範囲を伝えることで、児童が自分で準備して臨めるようにした。このような取り組みの積み重ねは、プランニング方略や努力調整方略の伸びにつながったと考えられる。また、自主学習では、テスト勉強だけでなく、テストで間違えたところを児童自身が分析して改善や見直しをしてくる課題も出した。そして、次回テストを受ける際には、自分の課題から設定しためあてを答案用紙に書いてから受けるようにした。このような取り組みも、学習方略の伸びにつながったと思われる。

### (3) 行事を通して、児童が主体的に取り組めるようなしかけづくり

高学年では、6年生を送る会や学習発表会などの行事の際には、教師からやることを伝えるだけではなく、児童に「どのようにしたいか」を聞きながら取り組むように心がけている。自分たちの力でやっているという気持ちを大切に、失敗したりうまくいかなかったりする経験も積みながら進めている。そして、振り返りの場を大切に、教師から取組の良さを価値づけ、児童に「やって良かった」と感じられる取組みにしている。例えば、昨年度、5年生では、学習発表会で「この劇を通して何を伝えたいのか」「どのような計画で練習していくか」「準備物はどうするか」などを、自分たちで計画して実行できるようにした。そこで、リーダーやそれを支えるサブリーダーの役割もつくって取り組む中で、児童のあきらめない気持ちややる気が育ち、非認知能力の育成につながったと考える。





# 課題を乗り越え、未来を切り拓いていく力の育成 ～境港市立外江小学校～

## 1 とっとり学力・学習状況調査の状況

- 【学力レベル】国語、算数の学力を伸ばした児童の割合が県平均を上回る。6年生においては、国語、算数の「学力の伸び率」が顕著で、特に上位層・中位層において伸びた児童が多い。
- 【学習方略】柔軟的方略、認知的方略、努力調整方略の伸びが見られる。
- 【非認知能力】自己効力感の値が県平均を上回るとともに、6年生で伸びた児童が多い。

## 2 効果があると考えられる取組

外江小学校では、平成30年度から現在まで算数科の研究を進めている。児童の実態把握、めざす姿の設定、ゴールを明確にした授業づくりに重点を置いて取組を重ねており、現在は他教科にも広げつつある。

### (1) 児童の実態把握とめざす姿の設定

#### ①学活・算数アンケート

児童の実態把握を行う取組として、全校児童を対象にした「学活・算数アンケート（全国学力・学習状況調査の質問紙を参考にして校内で作成したもの）」がある。このアンケートは毎年実施しており、結果から得られる学年や学校の傾向から、課題がある項目を次年度の重点項目として定め、授業改善を図っている。

①	学級会(話し合い)は、好きですか。
②	学級会(話し合い)では、自分の意見や考えを進んで発表しますか。
③	学級会(話し合い)では、自分とは違う意見を取り入れて、もっとよい考えにしようと思いますか。
④	みんなで決めたことができるように、進んで協力しますか。
⑤	算数の学習は好きですか。
⑥	算数の授業の内容はよくわかりますか。
⑦	算数の授業で学習したことを、ふだんの生活で活用できないか考えますか。
⑧	算数の授業であたらしい問題に出あったとき、それを解いてみたいと思いますか。
⑨	算数の問題の解き方がわからないときは、あらかじめいろいろな方法を考えますか。
⑩	自分の考えを発表するときは、自分の考えがうまく伝わるように言葉や数、式を使って、工夫して発表していますか。

#### ②学び方のプラン

学習指導要領を基に、学校独自で「学び方のプラン」を作成し、低・中・高学年でめざす学びの姿、つきたい力を設定している。この「学び方のプラン」を全職員で共通理解し、すべての教科等の授業づくりで意識するようにしている。

学 年	小学校1年・2年	小学校3年・4年	小学校5年・6年
めざす学びの姿	★与えられた課題を算数的活動を通して進めようとしていく。分かったことを他の人に伝えようとしている。自分の考えと聞いたら、違うと考えることができる。	★与えられた課題を算数的活動を通して解いている。自分と友達の意見が違っても話し合い、考えのよさを伝え合えることができる。分かったことを他の人に伝えたり、自分の意見に言い換えることができる。	★友だちの意見を敬んで聞いて、自分の考えを述べることができている。また、友だちとよく話し合えるように話し合っている。
思考力・判断力 表現力	●ものの数に注目し、具体物や図を用いて数の考え方や計算の仕方を考える。(1年) ●必要に応じて具体物や図を用いる。(2年) ●ものの数に注目して物を数えたり具体的な操作を通して平面図形の特徴を説明する。(1年) ●身の回りにもあるものの数に注目して数え、量の大さきの比べ方を考える。(1年) ●身の回りにあるものの数に注目して数え、量の大さきの比べ方を考える。(2年) ●データの集まりをグラフの特徴に注目して読み、簡単に表現したり考察したりする力を養う。(2年)	●必要に応じて具体物や図を用いて数の考え方や計算の仕方を探る。一目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を探る。 ●平面図形の特徴を説明する要素及びそれらの位置関係に注目し、図形の性質や図形の大きさについて考察する。 ●身の回りにもあるものの数に注目して数え、単位を用いて物量を表現する。一併して変わる二つの量やそれらの関係に注目し、変化や対応の特徴を思い出し、二つの数量関係を表す式を用いて考察する。 ●身の回りの事象をデータの集まりに注目して読み出し、表現したり判断したりする力を養う。一目的に応じてデータを集め、データの傾向に注目して課題解決したり解決の過程や結果を多面的に捉え考察する力を養う。	●目的に合った表現方法を用いて計算の仕方を探る。一多様な表現方法を用いるが計算の仕方を探る。 ●図形を構成する要素及びそれらの位置関係に注目し、図形の特徴や計算について考察する。 ●併せて変化する二つの量やそれらの関係に注目し、変化や対応の特徴を思い出し、二つの数量関係を表す式(グラフ)を用いて考察する。 ●目的に応じてデータを集め、データの傾向に注目して表やグラフに的確に表現する。それらを用いて、問題解決したり解決の過程や結果を多面的に捉え考察する力を養う。データの傾向や傾向に注目して適切な方法を選択して分析する力を養う。解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を養う。
知識及び技能	●数の概念とその表し方および計算の意味を理解する。(1年) ●数の概念の理解を深め、計算の意味を理解する。(2年) ●直線・図形・数量の関係について理解の基礎となる経験を重ね、感覚を豊かにする。(1,2年) ●直線・図形・数量の関係を理解し、長さや面積を比べたり簡単な図や図形を構成したりする力をつける。(1年) ●図形を構成したり長さやかさなどを測定したり表やグラフに表したりすることについての技能を身につける。(2年)	●数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数、分数の意味と表し方を理解する。 ●基本的図形の概念、量の概念やグラフについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにする。(3年) ●平面図形と立体図形、面積、角の大きさ、折れ線グラフなどについて理解する。(4年) ●図形を構成したり(図形の面積や角の大きさや求めたり(4年)長さやかさなどを測定したり表やグラフに表したりすることについての技能を身につける。	●整数の性質、分数の意味、小数と分数の計算の意味を(文字を用いた式、6年)理解する。 ●直線の長さ、図形の面積と体積、図形の体積、長さ、割合、表やグラフなど(比例、反比例)について理解する。 ●小数・分数の計算をする。 ●図形の性質を調べたり図形の面積や体積を求めたり表やグラフに表したりすることなどの技能を身につける。
学びに向かう力	●数量や図形に親しみ、算数で学んだことの良さや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。(1年)	●数量や図形に親しみ、算数的に表現・処理したことを振り返り、算数的な処理のよさに気付く生活や学習に活用しようとする態度を養う。(3年) ●算数的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え換	●算数的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え換

### (2) 研究のポイントを明確にした授業づくり

年度初めに全職員で「研究のポイント」を共通理解している。めざす姿の設定や手立ての工夫等、このポイントを基に、日々の授業を行っている。

#### 令和5年度 外江小学校の研究【算数科】のポイント

- 学力向上につながる授業実践に向けて
- 「何ができるようにねばよいか?」のB基準とA基準  
→教材研究をもとに、今日の授業を終えた子どもは何かができる(言えば、分かっていたら)よいか、といった具体的な子どもの姿をイメージする。それを板書にも描きたい。
  - 「解き直し」の更なる発展  
→「解き直し」は外江の研究の目玉の一つ。解き直しの充実は、学力向上に寄与するものとする。「本時の肝を全員が解き直す」という視点から取り組み方を考えていきたい。
  - ICT機器の活用で広がる学びの可能性  
→データの活用や図形領域はICTの活用が、ダイレクトに子どもの思考や理解を促進されることは多分にある。ICTで広がる学びの可能性も追究していきたい。

## ①算数授業の進め方

すべての授業者が同じ流れで授業を行えるように「算数授業の進め方」を作成し活用している。全学級で同じ流れで授業が行われるため、児童が進級し担任が替わっても授業の基本的な流れは変わらない。そのため、児童がスムーズに学習に向かうことができる。

また、昨年度の5年生（現6年生）の取組の一つに、「全員に課題を最後までやりきらせること」がある。児童の実態に合わせ、適切な課題設定・支援を行い、全ての児童が課題をやりきることに繋げている。

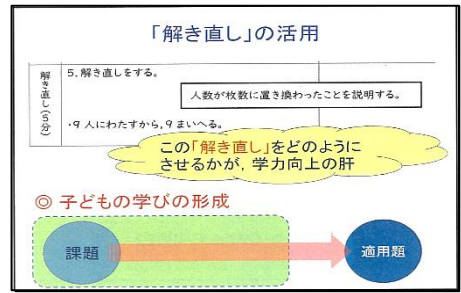
算数授業の進め方（一部抜粋）

【5分】まとめる

- 全体学習の子どもの発想が学習のまとめになるようにしよう。
- 今日のめあて、活動と照らし合わせながら、次の学習の残しておきたいことを「まとめ」としよう。
- 全員がアウトプットする時間を設けてもよいです。

## ②一時間の授業の中に「解き直し」の時間を設定

自力解決、全体学習の後、「解き直し」の時間を確保するようにしている。「解き直し」の際には、同じ問題や数値を変えた問題など、短時間で取り組めるものを用意し、学んだ解法のよさを実感するための時間になるように位置付けている。



## (3) つながりを大切にした学校

### ①学校と地域とのつながり

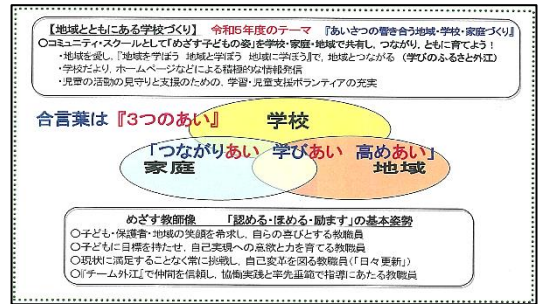
令和4年度からの学校教育目標「夢と希望に向かい進んで学び 挑戦する外江っ子」を基に、合言葉

『3つのあい』～つながりあい 学びあい 高めあい～を掲げている。児童と教師は、この『3つのあい』を意識し、学校教育目標実現に向けて取り組んでいる。日頃から児童同士、児童と教師、教師同士がつながることで、安心・安全な学校生活の基盤ができています。

また、地域の方が「かけ算ボランティア」、「花ボランティア」、「放課後学習ボランティア」等、様々な形で学校教育に携わっており、児童が地域の人と関わり、つながりあう場が非常に多い。

### ②総合的な学習の時間での主体的な学び

総合的な学習の時間では、児童が地域に出向いて調べたり、体験したりするなど、地域との関わりが深い。また、教師が課題を設定するのではなく、「何を、どのように学ぶのか」を常に考えさせ、児童が納得し、主体的に学ぶように学習を計画し、進めている。



放課後ボランティア「しらお塾」  
※現在は外江公民館で行っている。



4年生がちょうさ祭に参加する様子

すべての児童の学力向上につながるよう、児童の実態を丁寧に見取り、具体的な基準を設定し日々授業を行っている。それが積み重なり、児童は自分に合ったやり方を選択して理解を深め（柔軟的方略、認知的方略）、学校全体の学力の伸びにつながっていると考えられる。また、つながりを大切にした学校生活の中で、児童は安心して過ごすことができ、苦手なことにも挑戦しようとする気持ち（努力調整方略）や自己効力感の高まりにつながっていると考えられる。

# つながり、深く考え学ぶ教育活動の充実

## 学びや仲間とつながる対話型・探究型の学習を目指した授業づくり

### ～米子市立湊山中学校～

#### 1 とっとり学力・学習状況調査の状況

【学力レベル】国語、数学ともに学力レベルが伸びている。また、「学力を伸ばした生徒の割合」と「学力の伸び率」が県平均を上回る。

【主体的・対話的で深い学びの実施】県平均を上回る。

【学習方略】2年生、3年生ともに柔軟的方略、プランニング方略、作業方略の項目において、県平均を上回っている。3年生は、すべての項目において、伸びが県平均を上回る。

#### 2 効果があると考えられる取組

湊山中学校では、人権教育を基盤とした校内研究により、生徒同士がいきいきと協働的に学ぶ授業づくりを目指して取組を進めている。

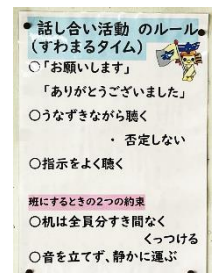
##### (1) 落ち着いて学べる環境づくりと仲間づくり

###### ①教室環境整備の共通理解と実施

ユニバーサルデザインの視点から、教室前面の掲示物を減らしたり机やロッカーの使い方について例を示して確認したりする等、教室環境整備のポイントについて共通理解を図り、生徒が集中して学ぶことができる環境づくりを全学年で行っている。年度初めに共通理解を図るだけでなく、学期始めや学期末の担任会等でも確認するようにし、整備された状況が継続できるようにしている。

###### ②よりよい人間関係をつくる方法を学ぶ機会の設定

5年前より、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを取り入れた「すわまるタイム」と名付けた活動を月2回程度行っている。ねらいや取組方法等を冊子にまとめ、教職員で共有し、ねらいを生徒と共有した上で実施している。「アドジャン」「二者択一」といった活動を通して、自分の考えを相手に伝えたり仲間の新たな一面を発見したりすることで、日常生活でのコミュニケーションをとるきっかけにしている。また、話し合い活動のルールを各教室に掲示しており、仲間とかかわりをもつ活動をする時の基本姿勢として、授業や帰りの会などの他の場面でも活用している。このような取組の継続が、主体的・対話的で深い学びの実現につながっていると考える。



##### (2) 誰もが学びたくなる授業づくり

###### ①意欲的に学びに向かう生徒の育成

さまざまな学習場面において、他者と交流し多様な考えにふれる機会を設定するようにしている。その際、新たな考えや学習に出会う喜びを感じることやかかわり合うことに重点を置き、リフレクションや言葉かけ、声をかけるタイミングを考えるようにしている。

今年度の2年生(昨年度1年生)では、全ての教科の授業において、特別なことがない限り1回以上はグループ活動を取り入れるようにしている。担任会で協議し、生活班を考えて学習グループを編成することで、他の生徒の考えを引き上げるようなかかわりをする生徒の姿も見られるようになってきている。

今年度の3年生(昨年度2年生)では、国語の授業において、少し難しいテーマについて自分の言葉で表現する場面を設定し、班で協力して話し合ったり意見を交わしたりする等、生徒の知的好



奇心が高まるような活動を取り入れている。一見間違いのように思う意見でも、その人の考え方を聞き、熟考する姿勢を教師自らも大切にしている。また、数学の授業では、自分の考えの根拠となる計算や数値をあげ、相手が納得する説明ができるようにしている。さらに、生活場面の課題を自分事として捉えられるよう、数学を通して課題解決に必要なものの見方・考え方を広げていけるような課題や展開の工夫をしている。

このように、生徒一人一人に寄り添い、生徒が自分の考えを表現したり他者と学び合ったりすることを通して、新たな気づきや発見、広がりを感じられるような授業づくりの工夫の積み重ねが、多くの生徒の学力を伸ばすことにつながっていると考える。

## ②学びのつながりを生かして生徒が主体的に学び合う授業の工夫

生徒同士が安心して互いを受け入れ合うことを基盤とし、他者との交流を通して見方や考え方を広げるとともに、自分から積極的に行動することができるようにするため、日々の授業において、自己決定・選択の場を作るようにしている。また、年2回の参観ウィークを設け、教員同士が互いの授業を参観して気づいたことを交流し、自身の授業を見直して授業改善につなげる機会としている。このような取組が、生徒の柔軟的方略、プランニング方略の伸びにつながっていると考える。

### 授業の各場面で大切にしたいこと

**個人で課題に取り組む場面：**生徒個々の実態に応じて、複数の学習課題の中から自分にあった課題を選択する機会や興味関心に基づいて教材教具を選択できる場を設定する。  
**班で活動する場面：**多様な考えに会えるようなめあてや学習課題を設定する。  
**課題解決を設定する場面：**対話の必要性のある課題設定をすることで、多くの課題解決方法を考え、自分に合った見通しをもち、取り組めるようにする。  
**ふりかえりの場面：**他者の成果から自分の学習に生かそうとしたり、多様な考えから見方を広げたりできるように、ふりかえりの内容を交流する時間を設定する。

### 参観ウィークにおいて、具体的な実践内容を確認する6つの視点

- ①他との交流を促す活動・発問の工夫をする。
- ②参考となる映像、画像、友達の意見から自分の学習に生かせるようにする。
- ③ワークシートに「友だちのよさ」を書く欄を設け、意識して交流できるようにする。
- ④自分の学習にどう生かせるか、友達の考えを共有する時間を持つようにする。
- ⑤学校生活での問題や課題を仲間と協力して解決していくことができるようにする。
- ⑥ふりかえり（今日の学習の中で参考となった友達の発言や助言はどんなことか）について、全体で共有できる場面を設定する。

## (3) 生徒が主体となって活動する場の設定

### ①週1回の学年集会

各クラス2名ずつの総務委員（中央委員のような存在）が中心となり、週1回、帰りの会の時間を使った学年集会をほぼ毎週、全学年が行っている。今週の振り返りと次週の目標等を学年全体で共有する場となっている。内容は、学年の課題、改善に向けて頑張ること、みんなで取り組みたいこと等を、総務委員で構成された学年生徒会であらかじめ具体的に考えた上で発信している。

### ②中学校区で進める課題発見・解決の活動

湊山中学校区では、各校の課題発見のためレーダーチャートアンケートを毎学期実施している。小中リーダー研修会で検討された6つの質問項目に全児童・生徒が回答し、各校の状況を把握する。現状や校区の目標に合わせ、質問項目の内容も検討を重ね、課題解決に必要なデータがとれるように小中リーダー研修会で話し合いを行っている。このように自分たちで課題を見つけ、解決方法を考えて取り組み、それを振り返りながらよりよいものを目指す活動が、柔軟的方略やプランニング方略の育成につながっていると考える。

### 湊山中学校区レーダーチャートアンケート用紙

